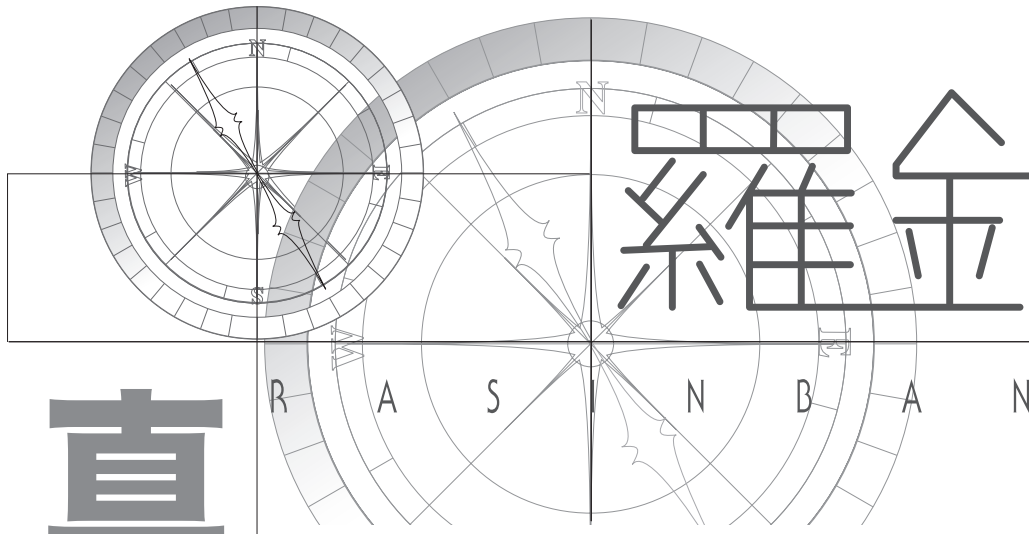


# 眞言宗 金任系 舟盤

COMPASS

http://www.hodo.in.net

発行所: 東京都豊島区南池袋  
一丁目十三番十六号  
日蓮正宗法道院法華講  
03 (3984) 2650



## 加持祈禱をお家芸とする 眞言宗

私たちは高度な文明社会に住んでいますが、だからといって、何の悩みもなく生活しているわけはありません。多くの人が、解決できない悩みや苦しみを抱えながら暮らしています。

確かに、世の中には、子供が不良になってしまった、嫁と姑がうまくいかない、難病にかかってしまったなど、色々な悩みに苦しんでいる人々がいます。

そういう私たちの生活に忍び寄ってくるのが、あなたの不幸の原因は、水子の霊を粗末にしたからだとか、先祖が武士で人を殺したためだとか、あるいは、悪い霊に取り憑かれているだとか言いながら、それを解決するためには呪術による加持祈禱をしなければならぬ、などと言いつつ、お金を要求する宗教があります。その典型が眞言宗なのです。

眞言宗には大きくわけて二流があり、ひとつは弘法大師所立のもので東寺の眞言といい、もうひとつは慈覚、智証の唱えた天台の眞言です。もっとも、壇を作り、護摩を焚き、眞言(呪術)を口に唱え、手に印を結んで加持祈禱を行うところに何ら変わりはありません。

仏教教団には僧侶と在家が存在しますが、眞言宗のように、仏道修行を行うのは僧侶だけで、在家はお金を払い、呪術による加持祈禱(眞言)をしてもらうという歪(いびつ)な関係で成り立っているものは、そう多くはありません。そういう関係の中では、在家信徒は、多額の布施を行うことによつての

み、その教団の中で意味を持つということになります。

ここで、眞言宗で行う加持祈禱について考えてみましょう。

たとえば、小さな子供が擦り傷を作ったとき、お母さんは「痛い痛い飛んでいけ」などというまじないを言い聞かせたりしますが、これが骨折や大きな怪我だった場合には、きちんとした治療も施さずに、まじないだけを行ったのでは、致命傷になってしまいます。

これと同じように、不幸の根本原因を究明することもなく、加持祈禱に頼っていれば、その不幸はいよいよ増大し、取り返しのつかない悲劇にまで至ってしまうのです。

## 眞言宗とはどのような宗目が

釈尊が説かれた經典は五千、七千といわれるほど数多くありますが、それらには順序次第があり、それは浅きより深きへ、権教(仮りのおしえ)から実教(眞実の教え)へと導かれているのです。そして、釈尊がこの世に現れた本懐(眞の目的)は、それらの教えの中で最も優れた法華經を説くためにありました。

法華經を説く直前に説かれた無量義經には、「諸(もろもろ)の衆生の性欲不同(しょうよくふどう)なることを知り、性欲不同なれば種種(しゅじゆ)に法を説き、種種に法を説くこと、方便力を以(もつ)てす。四十余年には未だ眞実を顕さず」と

説かれています。さらに、法華經方便品には、「正直に方便を捨てて、ただ、無上道(最上の道)を説く」と法華經こそが、釈尊の説かれた唯一最高の法であることが明らかに示されています。

このように、釈尊が説かれた一大聖教の中で、法華經を説く以前の教えは、方便の教え、仮りの教えであることを釈尊自らが、はっきりと宣言されているのです。

ところが、眞言宗では、釈尊が方便の教えとして説かれ、捨てよとまで言われた権經である大日經、金剛頂經、蘇悉地(そしつち)經を依經(根本の教え)として見ます。このことだけを見ても、眞言宗が浅く低い教えであることがよくわかりますが、弘法は自著である『十住心論、秘藏宝鑰二教論(ひそうほうやくにぎょうろん)』の中で何の根拠もなく、この尊い法華經を第三の戲論(けるん)との暴言を吐いています。

法華經には「文殊師利(もんじゆしり)、此(こ)の法華經は諸仏如来の秘密の蔵也、諸經の中に於(お)いて最も其(そ)の上に在(あ)り」とも「葉王(やくおう)今汝(なんじ)に告ぐ我が所説の諸經あり。而(しか)も其(そ)の中に於(お)いて法華最大一と云々」と説かれています。弘法は法華經に説かれたこれらの仏説を知りながら、法華經を第三の戲論(けるん)などの妄言を吐いたので、まさに、人をたばらかす戲言(たわごと)にも程(ほど)があると言わなければなりません。

さらに、弘法は愚かにも釈尊が最大一と述べた法華經壽量品(ほけきょうじゆりょうぼん)に説かれた仏を退け、大日經で説かれた大日如来を本尊とし

# 眞言宗とは、どのような信仰か

立てています。このことから、弘法の仏説を無視した奸智が明らかです。なぜなら、釈尊が説いた大日如来は、浄土宗で説く阿弥陀如来などと同じように、釈尊の影にすぎないからです。

もう少しわかりやすく言えば、池に映った月があるとしても、釈尊が夜空に輝く月であるとする、大日如来や阿弥陀如来は、その池に映った月にすぎないのです。

それらは、池に映った仏ですから実在の仏ではなく、私たちには何の縁もありません。それらが架空の存在である証拠に、彼らには父母もなく、実際に地上に存在した事実もありません。所詮（しよせん）、釈尊が、衆生を導く比喻として語った方便にしかすぎないのです。ですから、法華経が説かれた後は、当然、方便として捨てなければなりません。

弘法は、この事実を目をつぶって釈尊を口を極めて罵り、大日如来を本尊として印（様々な手の組み方）と真言（呪術）による加持祈禱を行う真言宗をうち立てたのです。

真言宗では本主である釈尊を倒し、架空の仏を尊ぶわけですから、そのような信仰が広まるならば、その国は滅びてしまうことになるでしょう。真言宗は、まさに亡国の教えであり、地獄の業因となる邪宗教なのです。

## 末法の仏様とは

仏教では、末法という言葉がよく使われますが、末法とは、どういう意味の言葉なのでしょう。それは釈尊が亡くなられて後、二千年後の時代を意味します。末法の末とは、漢文では否定形として用いられ、末法とは、釈尊の法（白法）がなくなった時代、釈尊の法が効力を失った時

代のことを指します。釈尊が入滅して後、二千年後、釈尊が説かれた教えに人々を救う力がなくなり、経巻のみがあるだけで、正しい修行も功德もなく、自然災害が多発し、不治の病が流行し、人々の間では争いの絶えない時代が訪れると経巻には説かれています。

これは、日本では平安の末期から鎌倉時代の初期にあたり、この時代は、まさに釈尊の予言通り気候は不順で人々は飢饉に苦しみ、そのうえ疫病が流行して死者は巷（ちまた）にあふれるという惨状を呈していました。また、時代は貴族による摂関政治が終わりを告げ、武士が台頭してくるといふ動乱期で、人々は、末法の到来を不安に怯えながら迎えました。

しかし、そのことによって仏教が減じたわけではありません。釈尊は、末法に入ってからからの仏法についてもきちんと説かれて生涯を閉じられているのです。

では、末法に入り、釈尊の法が減した後、どのような仏様が現れるのでしょうか。また、それは、一体、どの經典に説かれているのでしょうか。実は、そのことが釈尊の出世の本懐である法華経に説かれています。

釈尊は五十年間にわたり法を説いてきましたが、最後の八年間に自分自身がこの世に出現した一番の目的である最も重要な法を説かれました。その法こそが法華経だったのです。さて、法華経に説かれた末法の仏様についてですが、法華経には、どのように説かれているのでしょうか。

法華経には、その仏様は、末法に現れて法を説くが、ある時は、しばしば所を追われ、また、ある時は、時の権力者や出家在家の人々に迫害を受け、石を投げられ、杖で打たれ、あまつさえ、刀の難まで受けられながら、一切衆生を成仏に導き、幸せにする法を説いていくと説かれ

ています。その仏様は、末法の衆生の闇を払い、人々がもっている尊い命を輝かせる大白法を所持され、その法を説くために、いかなる難も耐え忍ばれるのです。

日蓮大聖人は、末法の一切衆生を救うために、法華経に予証された通り、数多くの法難に遭いながら、唯一無二の法を説かれました。そのお振る舞いは、まさに、法華経に説かれたそのまを身をもって行じられ、まさに、末法の仏様であることをその行動によって証明されたのです。

## 真実の宗教とは

人は、苦しいことや悲しいこと、また困難なことに出会ったとき、それを解決し克服する方法について思いをめぐらします。しかし、その解決方法を見いだすことは容易なことではありません。

仏法では、生・老・病・死など人間だれもが直面する人生の本質的な苦悩を根本的に解決する道を説き示しています。そして、その本質的な苦悩を解決せずして、真の幸福はありえないと説いています。

真の幸福とは、観念的なものではなく、因果の道理をもととした正しい信仰によって、自己の内面にある健全な生命を確立し、深い智慧と強い心を養うことによつてはじめてもたらされるものです。

さて、「正しい」という字は一に止まる、と書きますが、正しい宗教が二つも三つもあるわけはありません。釈尊は、「十方仏土の中には、ただ一乗の法のみ有り、二無く亦（また）三無し」と法華経に説かれています。このことからわかるように、末法に生きる

現代の私たちが信じるに足る正しい教えは、ただひとつしかなく、その教えを説かれた方は、末法の仏様である日蓮大聖人なのです。

日蓮大聖人は、末法の一切衆生を真実の幸せに導くため、最高尊極の法である南無妙法蓮華経を唱え出されました。その日蓮大聖人の教えを七百五十年間にわたって現在まで清浄に誤りなく受け継いできた唯一の教団が富士大石寺を総本山とする日蓮正宗なのです。

私たちは日蓮正宗の信徒として、法道院（池袋）で歓喜に満ちて信仰に励んでいます。どうか、みなさんも、真実の仏法と出会って、かけがえない人生を光り輝かせてみてはいかがでしょうか。

